

調べて分かった、ボクらのまち 感想を聞かせてください

小学生特派員紀藤雅典君（古井小3年）のお母さんは、紀藤君の取材に同行されたそうです。

取材された感想を伺いました。

取材して感じたこと



紀藤小百合さん
(本郷町)

息子の取材を通じて、ブラジルのお店に行ったり、ブラジルの人と話す機会があったことは、息子にとって貴重な体験でしたが、私にとっても本当に貴重な体験でした。

私たちが住んでいる町内にもブラジルの人など多くの外国人の人が住んでみえますが、なかなかお話しすることはありませんでした。

ブラジルの人とお話しするのだから、息子とポルトガル語を少しですが勉強

しました。私たちのポルトガル語が通じるのか不安でしたが、取材先の店員さんに笑顔で答えていただいたときは、うれしかったです。

外国の人という少し身構えてしまいましたが、今回の取材を通じて、知らない外国の人にも、声をかけることにより、互いに理解できることがわかりました。

子どもたちは、小学校で多くのポルトガル語を覚えてきます。私たち大人も、子どもたちと一緒に、外国の言葉や文化を勉強していくことは、とても大切なことだと思いました。

取材を終えて、ブラジルのお店で買い物をしていたら、私たち親子に「これは、ブラジルの子どもが大好きなお菓子ですよ」と、片言の日本語で話しかけてくださった女性がいました。本当に感動しました。反対の立場であつたら、同じことができただろうか・・・

今回、息子と取材させていただき、いろんなことを考えさせられました。

木下真波さん（小学生特派員、伊深小5年生木下真帆さんのお母さん）に、小学生特派員の皆さんによる発表について、感想を伺いました。

小学生の皆さんの発表を聞いて



木下真波さん
(伊深町)

各小学校のお話を聞いて感じたのは、子どもの視点でよく町の様子を見ているなあということでした。

太田小学校の皆さんの発表では、「おん祭MINOKAMO」の裏方さんの大変さが伝わりました。古井小学校の紀藤君のお話は、外国人との関わりを改めて考えさせられましたし、加茂野町に、こんなにため池があることも知りませんでした。

本当に、みなさんが、それぞれの町をよくまとめていたと思います。

私は、美濃加茂市に住んで約20年になりますが、今回各小学校の発表を聞いていろんな特長のある町だなと思いました。

次代を担う子どもたちのために、今できることを・・・

今月号の特集は、いかがでしたか。

市内の小学生の代表による「小学生特派員」が、自らのまちの様子を市民の皆さんに伝えようと、懸命に取材してくれました。

古井小学校の紀藤君のように、親子で取材していただいた学校があれば、太田小学校や伊深小学校など、学年全体で取り組んでいただいた学校もあります。

また、町の社会問題や環境問題など、どの報告も小学生の目線で、それぞれの町をしっかりと取材してくれていると思います。

美濃加茂市が誕生して50年。

これからの50年は、どう変化するのでしょうか。私たちは、こうした次代を担う子どもたちのためにも、今できるまちづくりを自ら進んで行う必要があるのではないのでしょうか。

世代を越えた市民の目線で、「まち」の様子を市民の皆さんに紹介することにより、将来の「美濃加茂市のまちづくり」ができればと思います。